

## - 4 . 準天頂測位実用システムに関する検討(その2)

### Research on Quasi-Zenith Satellite Navigation System (II)

<b>キーワード</b>	宇宙開発、GPS、衛星測位、準天頂衛星、ガリレオ
<b>Key Word</b>	Space development, GPS, Satellite navigation, Quasi-Zenith Satellite, Galileo satellites

#### 1. 調査の目的

本業務は、昨年度実施した「準天頂測位実用システムに関する調査(その1)」の成果を踏まえて、準天頂衛星の搭載機会を活用する高精度測位実験システムの開発成果の実用化に際して国のあり方を検討するため、関連情報を収集整理分析し、高精度測位実験システムの開発およびその利用促進に資するものである。

#### 2. 調査研究成果概要

##### (1) 調査方法

国内外の最新文献、論文を収集・整理・分析するとともに、専門課、有識者への面接調査を実施した。

##### (2) 調査の内容

調査内容は以下の通りである。

米国及び欧州の測位衛星に関する調査

米国および欧州の測位衛星に関し、歴史的経緯も踏まえ、国の政策及び制度上の位置づけを調査。

測位衛星システムのインフラストラクチャとしての要件整理

上記の調査結果をもとに、測位衛星システムが我が国のインフラストラクチャとなりうる要件を整理した。整理に際しては有識者のレビューを活用する。

位置および時刻情報提供の行政サービスのあり方に関する検討

我が国として、航法支援、位置情報提供および時刻情報提供の行政サービスのあり方を複数のオプションを想定して検討した。

#### 測位衛星システムの公共財としての位置付け

経済学の観点から、政府に期待される役割として、最初は、市場を通じては提供されない、しかし、国民生活には欠かせない各種公共財や国際公共財を供給すること。所得の再分配を通じて基礎的な不平等を解消すること、景気の変動を極力排除すること、将来世代を見据えて施策を採ること、などが挙げられる。測位衛星が提供するサービスの前には、大きく発展を見込める市場が横たわっている。この市場の環境を、競争を基盤とする自由で活力溢れるものとするため整備し続けていくことは、我が国の将来世代に大きな利益となるものである。また、測位衛星システムの整備は、多くの専門家が指摘しているように、我が国の平和と安全保障にも欠かせないものである。例えば、準天頂衛星システムは、その便益が我が国を含む多くの国に波及する「国際公共財」であること。次いで、国内においては、それが、「将来世代」にも豊かな市場環境と安全保障という「公共財」の機能を有するという事などから、その整備には、政府の関与が期待される。

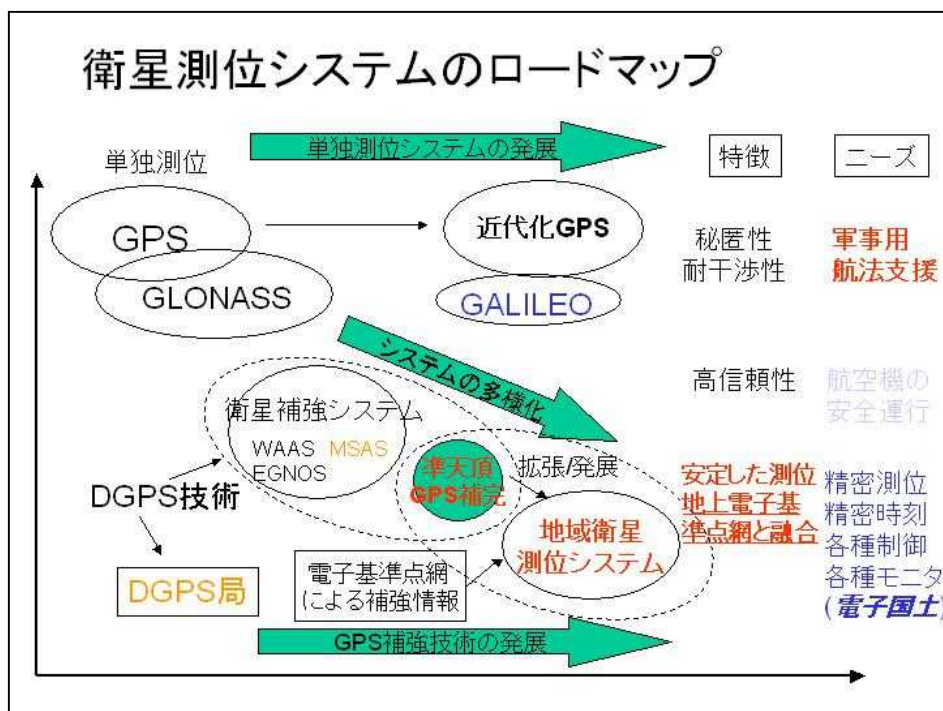


図1 衛星測位システムの発展方向 (JAXA)

自立性をもった地域衛星測位システムへの発展が期待される。